

株主メモ

上場証券取引所	東京(証券コード:6762)
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当基準日	期末:毎年3月31日、中間:毎年9月30日
株主総会基準日	毎年3月31日(そのほか臨時に必要があるときはあらかじめ公告いたします)

定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告(当社のホームページ http://www.tdk.co.jp/ に掲載いたします)
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

■ 株式に関するお手続きについて

お手続きの内容	お問い合わせ窓口
配当金の受取方法の指定、変更 単元未満株式の買取・買増請求 住所変更、名義変更等	証券会社等にて当社株式をお持ちの株主様 ▶お取引のある証券会社等へお問い合わせください。
	特別口座にて当社株式をお持ちの株主様 ▶三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。
未払配当金の照会、支払い	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。

■ お知らせコーナー

<p>● 配当金の受取方法について: 配当金はお受取り忘れのない、安心、確実、スピーディーな、口座振込でのお受取りをお勧めします。</p>
<p>● 単元未満株式の買取・買増請求について: 単元未満株式の買取・買増請求に係る当社に対する手数料は無料となっておりますので、是非ご活用ください。 (但し、特別口座の株主様を除き、証券会社等に対する手数料が別途必要となる場合がありますので、ご注意ください)</p>
<p>● 今回お送りした「配当金計算書」について: 確定申告を行う際、添付書類としてご使用いただくことができますので、大切に保管ください。</p>

■ 株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) (受付時間:9:00 ~ 17:00 ※土日休日を除く)



この冊子は植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

TDK株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目9番1号
<http://www.tdk.co.jp/>

122期 株主通信 証券コード:6762

TDK Today

Vol.61

2017年4月1日 ▶
2018年3月31日

特集:自動車の電装化の
進展とTDKの戦略



株主の皆様へ

売上高は5期連続で過去最高を更新 さらなる企業価値の向上を 目指してまいります。



2018年3月期の業績について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年3月期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の業績についてご報告申し上げます。

当期におけるエレクトロニクス市場を概観しますと、自動車市場は、自動車の電装化の進展による部品搭載点数増加の傾向が続き、旺盛な部品需要が継続しました。産業機器市場は、好調な半導体投資や企業の自動化投資などにより引き続き堅調に推移しました。また、ゲーム機やエアコンなどの家電製品向けの需要も堅調に推移しました。一方、ICT(情報通信技術)市場では、スマートフォンの生産で一部調整が見られました。

このような経営環境の中、2018年3月期の連結業績は、売上高が前期比7.9%増の1兆2,717億円、営業利益が前期比59.0%減の856億円、当期純利益が前期比56.3%減の635億円となりました。

2018年3月期 連結業績概要

売上高	1兆2,717億円 (前期比 7.9%増)
営業利益	856億円 (同 59.0%減)
当期純利益	635億円 (同 56.3%減)

当期は、売上高が5期連続で過去最高を更新し、前期に高周波部品事業の一部を譲渡した影響を既存事業の収益拡大により吸収することで、営業利益でも実質増益を確保しました。中でも二次電池は、スマートフォン市場の需要変動に対応すべく、生産能力の適正化を随時行い、市場ニーズを確実に捉えた結果、売上、営業利益とも3期連続で過去最高を記録しました。

2019年3月期の取り組みについて

当社は、2018年5月、2021年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画を策定しました。2021年3月期の売上高1兆6,500億円、営業利益率10%以上、ROE14%以上を数値目標として掲げ、電子部品事業を軸足に、市場の求めるソリューションで大きく飛躍したいと考えています。新たな中期経営計画の初年度となる2019年3月期は、以下の取り組みを推進してまいります。

■電子機器の高機能化・多機能化に伴う、電子部品の安全性へのニーズの高まりを踏まえ、材料から製造までを一元管理した生産プロセスのさらなる強化を推進するとともに、原材料を安定的に調達する施策や、希少金属の使用量を減少させる新工法の開発に取り組んでまいります。

■買収したセンサ関連企業とのシナジーを早期に創出すべく、グローバルな人事制度を整備し、適正な評価や育成スキームの充実を図り、獲得した人材を経営に活かしてまいります。

業績と配当の見通しについて

2019年3月期の連結業績予想と1株当たり配当金の見通しは以下の通りです。

売上高	1兆3,400億円 (当期比 5.4%増)
営業利益	1,000億円 (同 16.8%増)
当期純利益	700億円 (同 10.3%増)

※通期の平均為替レートは対米ドル105円、対ユーロ129円を想定
(2018年4月27日時点)

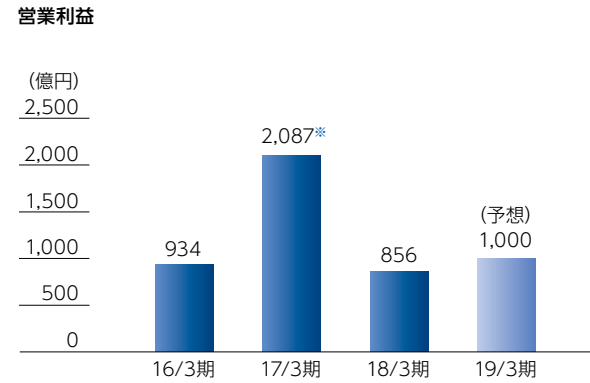
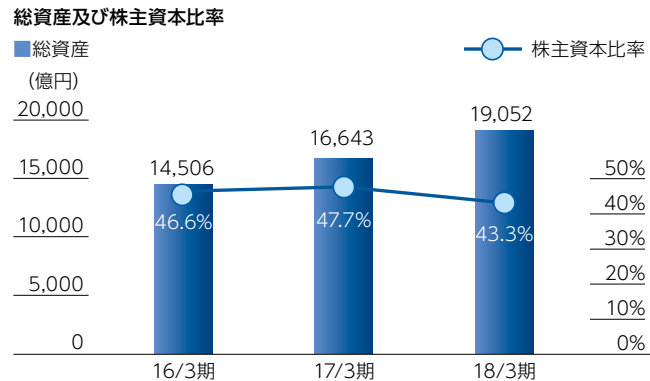
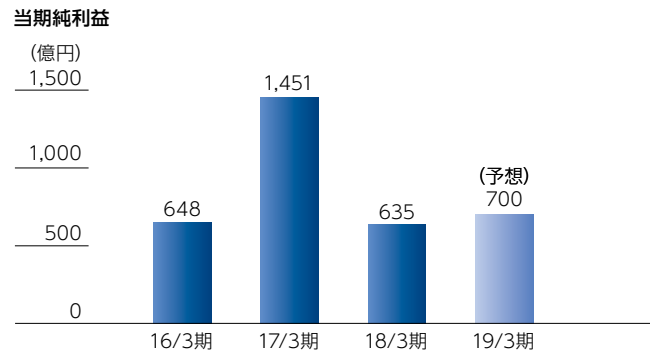
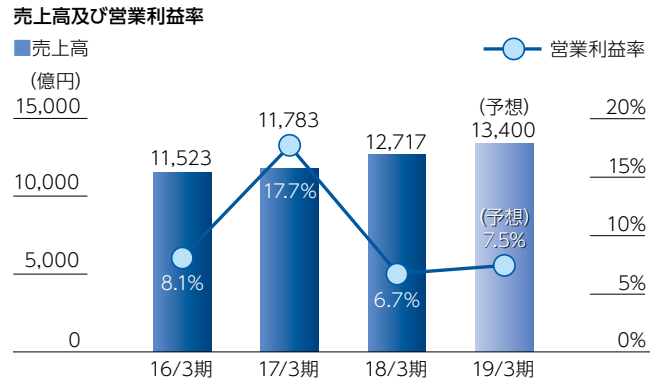
中間配当	70円 (当期 60円)
期末配当	70円 (同 70円)
年間配当	140円 (同 130円)

今後も、これまで培ってきた素材技術やプロセス技術をより先鋭化し、市場のニーズに迅速に対応するソリューションの提供を強化することで、持続可能な成長とさらなる企業価値の向上を目指してまいります。

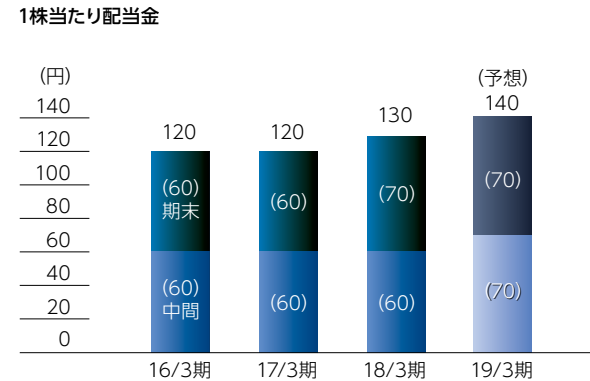
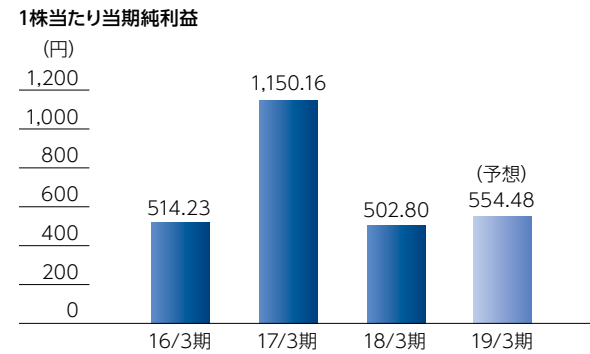
株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 石黒成直

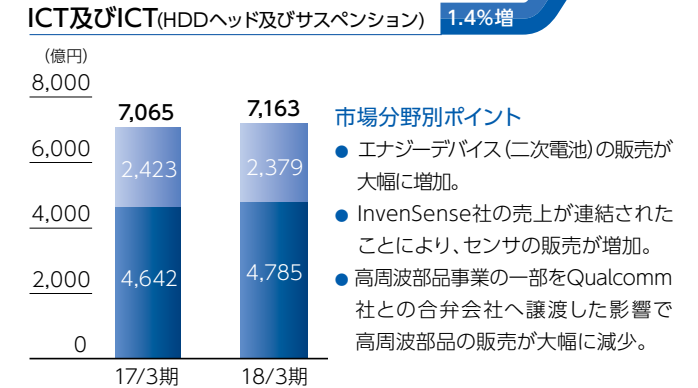
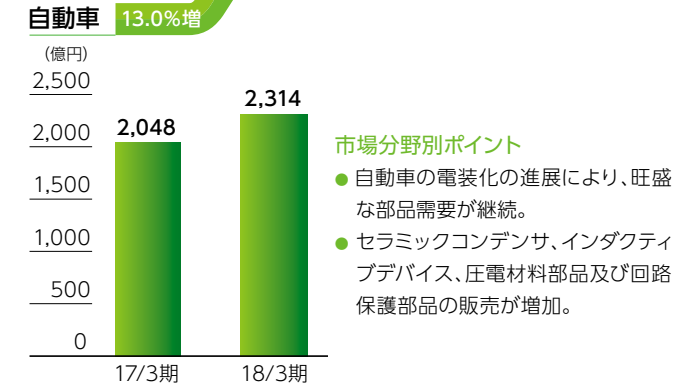
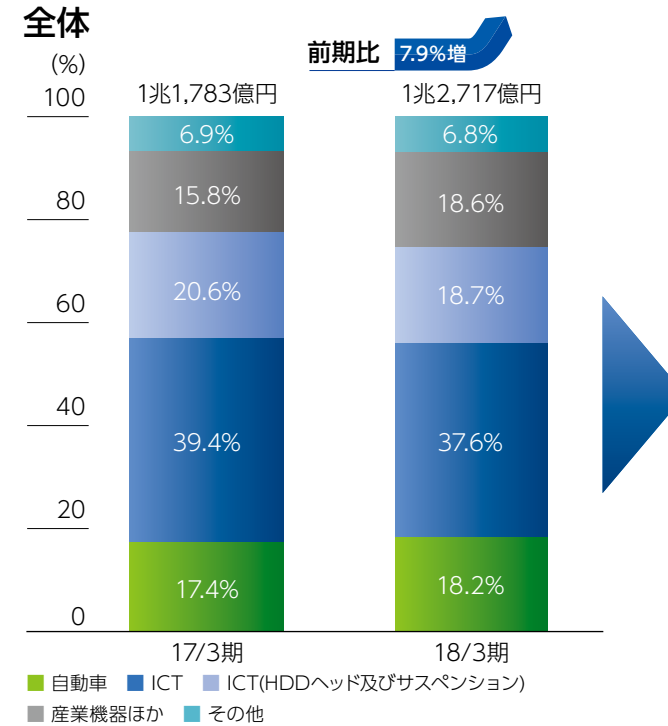
■主要財務指標等の推移 (予想:2018年4月27日発表)



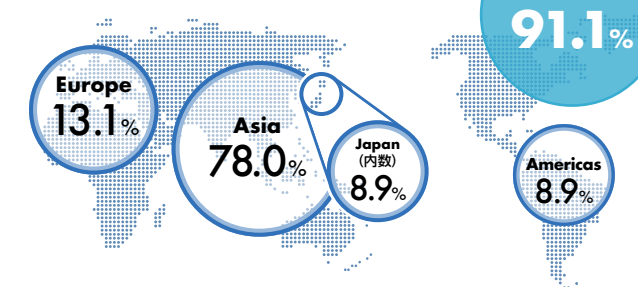
*高周波部品事業における合併会社設立に伴う一時的な事業譲渡益1,444億円が含まれております。



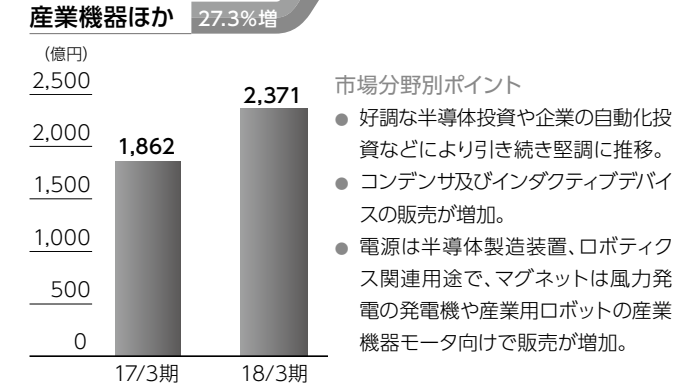
■重点分野別売上の状況 (2018年3月期)



■地域別売上構成 (2018年3月期)



TDKグループはグローバルに事業を展開しており、海外売上比率は90%を超えています。また、地域別では、日本を含めたアジア地域が78.0%と、最も大きな割合を占めています。



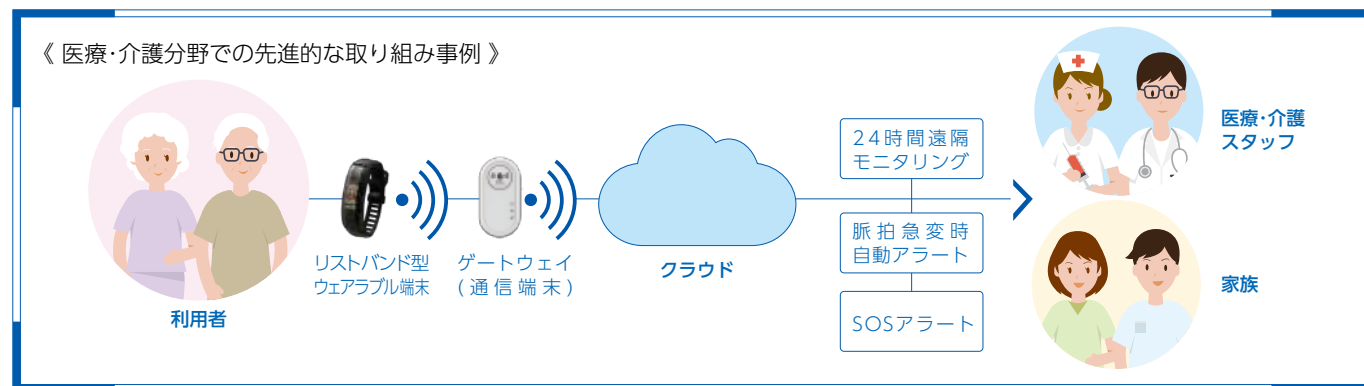
リストバンド型ウェアラブル端末を用いた 遠隔モニタリングシステムの開発

センサ技術とソフトウェア技術を融合させたTDKの生体センサ機器“Silmee™(シルミー)W20”は、脈拍や活動量をはじめ、会話量、睡眠時間、UV(紫外線)照射量などの**生体情報を測定・記録できるウェアラブル端末**です。収集したデータをクラウドに送信する通信端末の“Silmee™ L10”を組み合わせることで、**生体情報をほぼリアルタイムで遠隔モニタリングするシステムを容易に構築**することができます。



医療・介護向け「24時間遠隔モニタリングシステム」で業務提携

TDKは、2017年10月、病院・介護施設関連事業などを展開している株式会社トーカイとの業務提携を発表しました。同社が取り組んでいる「24時間遠隔モニタリングシステム」の早期実用化を目指します。独り暮らしのお年寄りなどに、当社のウェアラブル端末を装着してもらい、自宅に設置した通信端末からクラウド経由で、脈拍情報を医療・介護機関に送信することで、急変時の迅速な対応や重症化予防に役立ち、ひいては医療・介護関係者の負担軽減や離れて暮らす家族の安心にもつながります。



認知症患者の徘徊を検知する「遠隔モニタリングシステム」を共同開発

TDKは、2018年2月、Silmee™を使用した「遠隔モニタリングシステム」を大分大学医学部と共同で開発しました。認知症患者が危険な場所を徘徊したり、行方がわからなくなったりといった問題を解決すべく、現在、実用化に向けた実証実験が、大分大学医学部付属病院で進められています。患者の位置情報に加え、バイタルデータや会話量も遠隔モニタリングが可能となることから、うつ病など他の疾患患者への応用も期待されています。

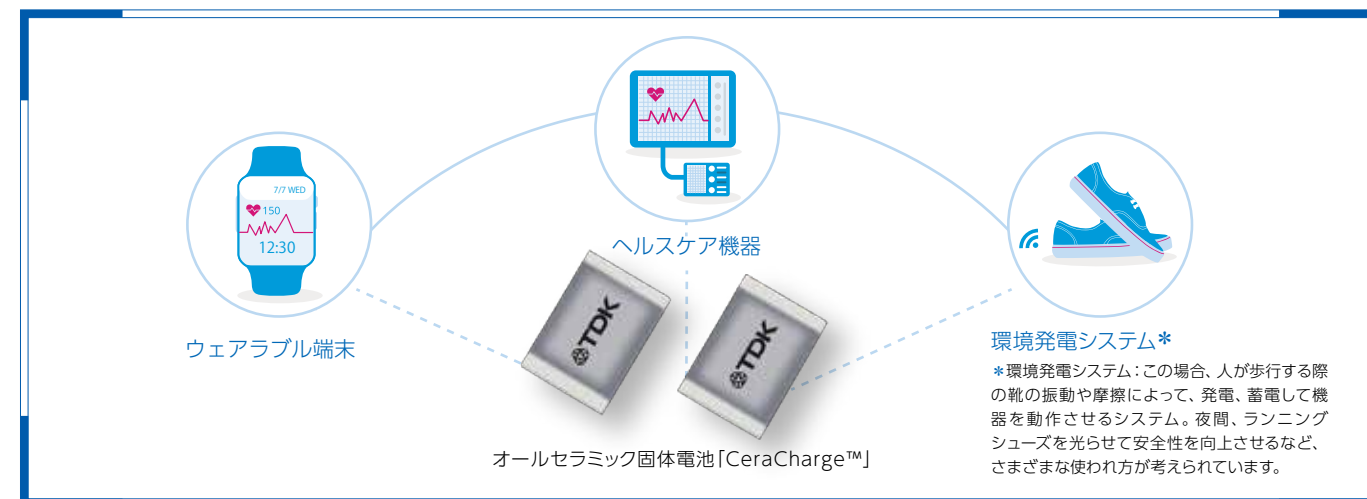
世界初のオールセラミック固体電池を開発

全固体電池とは？

全固体電池とは、一般的な電池に用いられている電解液を使用することなく、固体の電解質を介して充放電する電池のことです。液漏れなど液体特有の安全性の問題を解消するとともに、高いエネルギー密度・出力密度を実現することで充電容量の拡大、充電時間の短縮など、多くのメリットがあります。さまざまな可能性を秘めた次世代の二次電池として、現在多くの注目を集めています。

充放電可能なオールセラミック固体電池「CeraCharge™」

TDKは、SMD(表面実装)技術を用いた、**充放電可能なオールセラミック固体電池「CeraCharge™(セラチャージ)」**を開発しました。SMD技術により、プリント基板の表面にはんだ付けのみによって実装することができるため、最終製品における電池の配置がこれまでの電池に比べ容易になります。TDKがこれまで積層セラミックコンデンサ(MLCC)などで培ってきた積層技術を応用することで、**高いエネルギー密度と小型化**を実現しています。また、固体セラミック電解質を使用することで、発火や破裂、電解液が漏出するリスクはなく、**高い安全性を確保**しています。IoT(モノのインターネット)専用デバイスやウェアラブル端末、環境発電システムなど、比較的容量の小さい民生機器向けを中心に活用が期待されています。



メカニカルな部品に代わり電子部品の割合が年々増加

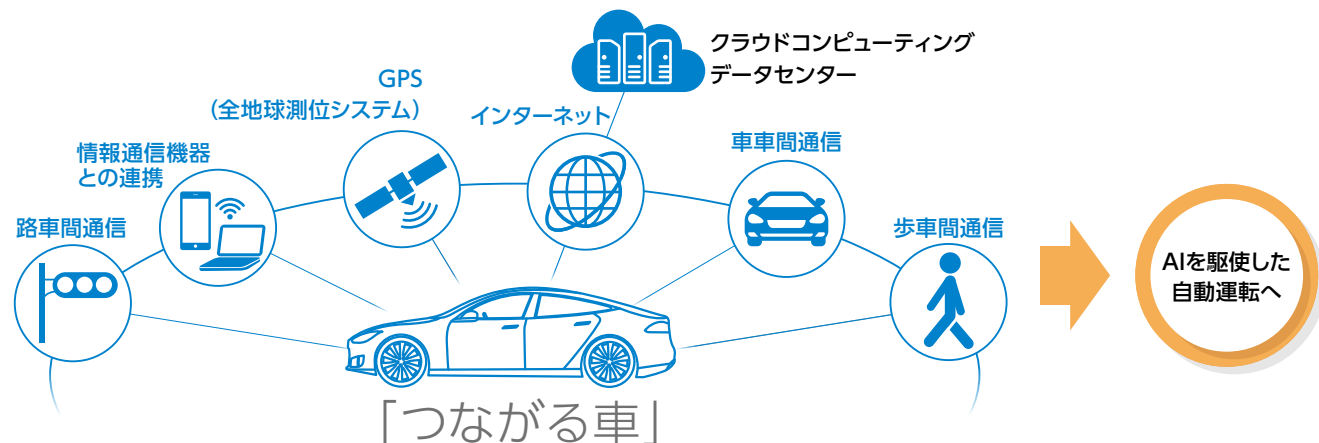
近年、自動車に多くの電気回路や電子部品を搭載する“電装化”が急速に進んでいます。自動車の電装化には、車体の軽量化や燃費の改善などさまざまなメリットがあり、この流れは今後ますます勢いを増すものとみられます。自動車1台当たりの総コストに占める電子部品の割合は年々増加し、「xEV」と総称される電気自動車のうち、ハイブリッド車(HEV)では約50%、バッテリーで走行する純粋な電気自動車(BEV)では約70%を占めるとみられています。

従来のエンジン車は2020年頃をピークに販売台数が減少し、代わってxEVが増加すると予測されています。エンジン車にはエンジン本体をはじめ、変速機や燃料タンク、マフラーなど約10万点にのぼる部品が使われていますが、モータのみで走行するBEVではその多くが不要になります。世界的なBEVの普及は、産業構造を一変させるほどのインパクトをもっています。

最新の技術トレンドは「つながる」車と自動運転

「走る、曲がる、止まる」という自動車の基本機能に、近年は「つながる」も加わるようになりました。先進のICT(情報通信技術)と融合し、インターネットやスマートフォン・パソコンなどの情報通信機器と自動車自体が常時つながることで、走行しながらさまざまな情報を受けられるように進化しているのです。また、運転の安全性と快適性を高めるADAS(先進運転支援

システム)も急成長を遂げています。ADASでは、車載レーダーをはじめ、多数のカメラやセンサなどが搭載され、さらにクラウドやAI(人工知能)とつながった自動運転を目指した技術開発も進んでいます。将来的には、完全自動運転車(ロボットカー)が実用化され、自動車が“走るリビングルーム”や“走るオフィス”と呼ばれる日が来るかもしれません。



高度で多彩なセンシング技術もTDKの強み

自動車は、ICT、産業機器・エネルギーとともに、TDKが注力している3大重点市場の一つです。TDKは蓄積したコアテクノロジーに磨きをかけ、車載用に最適化した高信頼性の電子部品の提供により、**燃費・電費、安全性、快適性・接続性**の向上に貢献しています。これからの「つながる」車や車載システムでは、高度なセンシング技術も求められます。多種

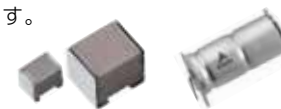
多様な車載用センサをラインアップしているのもTDKの強みです。とりわけHDDヘッドで培った薄膜技術を応用展開して開発したTMRセンサ(磁気センサ)は、高精度と高出力を特長とし、EPS(電動パワーステアリング)モータの角度センサなどとして国内外の自動車に採用され、高い評価を得ています。

車載用に最適化したTDKの主要製品ラインアップ

コンデンサ

安全性 快適性・接続性

すぐれた耐熱性と耐振性を有するセラミックコンデンサやアルミ電解コンデンサなどの各種コンデンサが、電装化が進む自動車の安全性と快適性・接続性を向上させる車載電気回路に採用されています。



インダクタ

安全性 快適性・接続性

エンジンの近くに配置されるECU(電子制御ユニット)など、過酷な温度環境にさらされるシステム向けに、電気信号を整えたり、電圧を安定させたりする各種インダクタを提供しています。



コモンモードフィルタ

安全性 快適性・接続性

各種車載LANシステムで使用される高信頼性のノイズ対策製品です。重大事故を引き起こす電子機器の誤動作を防ぎ、自動車の安全・快適な走行をサポートします。



各種センサ

安全性 燃費・電費 快適性・接続性

より安全で快適な走行に貢献するEPS(電動パワーステアリング)や、燃費・電費を改善させるアクセル制御システムに欠かせない、高精度なセンシングを実現するTMRセンサなど、各種センサを提供しています。



xEV用DC-DCコンバータ

燃費・電費

xEVのメインバッテリーの高電圧を、車載電子機器用の低電圧に高効率変換して供給する小型のDC-DCコンバータが、国内外問わず、多くの自動車メーカーのxEVの燃費・電費の向上を支えます。



マグネット

燃費・電費

xEVの駆動用モータの小型・軽量化と高効率化をもたらすネオジウムマグネットや、ワイパーなどを駆動する小型DCモータ用のフェライトマグネットが、省エネルギー化・省電力化に寄与します。





フェライトを原点とする素材技術、素材の持ち味を引き出すプロセス技術など、長年にわたって培われた総合技術力がTDKの強みです。絶えず時代の変化や最先端のニーズに対応することで、世界有数の電子部品メーカーへと発展を遂げてきたTDKの歴史をシリーズでご紹介します。

第3回「テレビの普及、カセットテープの成功」

1950年代～1970年代



偏向ヨーク用
フェライトコア(左) /
フライバックトランス用
フェライトコア(右)

テレビのブラウン管で活躍したフェライト技術

1950年、NHKがテレビの実験局を開設。本放送の開始を見据えて、電機メーカー各社はテレビの開発に取り組みました。TDKは、1951年、テレビのブラウン管を構成する偏向ヨークやフライバックトランス用のフェライトコアを開発・提供しました。偏向ヨークは、ブラウン管内で電子ビームを磁界で曲げて蛍光面に画像を映し出すための部品、フライバックトランスは高電圧を発生させる部品です。テレビの黎明期から、TDKのフェライト技術が活躍し、テレビ用フェライトコアでの確固たる地位を築きました。



シンクロテープ

新事業として磁気テープの開発に着手

主力製品であるフェライトコアに加え、磁性材料を応用した新事業の開拓を進めていたTDKは、1951年、テープレコーダ用の磁気テープの研究開発に着手。試行錯誤の末に、1953年、アセテートベースとする磁気テープを開発し、「シンクロテープ」という商品名で発売しました。その後、磁性材料に改良を重ね、1957年には、NHKで使用されていた海外メーカーの磁気テープと同等の性能をもつことが評価され、NHKに放送用テープとして採用されました。



世界初の音楽用
カセットテープ
[SDカセット]

TDKの名を世界に轟かせた音楽用カセットテープ

1960年代に入り、世の中に始まったカセットテープは、まだ記録できる信号量が少なく、音楽の録音用としては不十分なものでした。そこで、TDKは新たに高性能な磁性材料を採用し、1968年、世界初の音楽用カセットテープ「SDカセット」を開発しました。同年、ニューヨークで開催された見本市「CEショー」で発表するや、またたくまに爆発的なヒット商品となり、TDKの名は世界に響きわたりました。こうして、TDKは磁気テープのリーディングメーカーとしても、大きく飛躍を遂げるようになりました。

《TDK History 第4回》は、「AV機器、パソコンの発展とともに」をご紹介します。

第1回
1930年代

第2回
1930～1950年代

第3回
1950～
1970年代

第4回
1970～1980年代

第5回
1980～1990年代

第6回
1990～2010年代

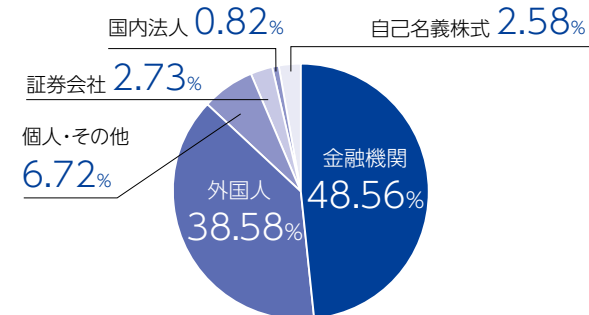
会社概要・株主の状況

■ 会社概要 (2018年3月31日現在)

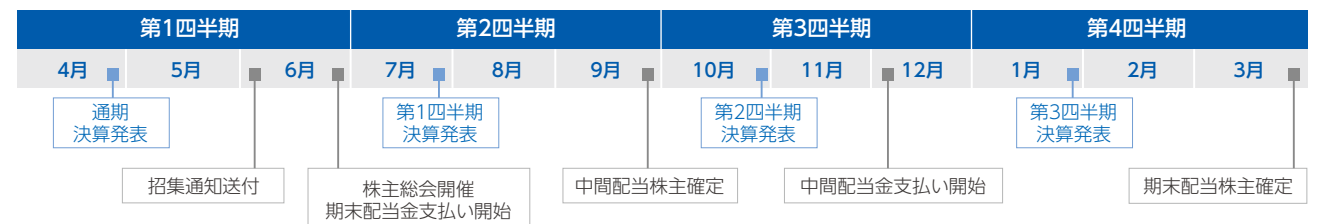
商号	TDK 株式会社 (TDK Corporation)
本社所在地	東京都港区芝浦三丁目9番1号 芝浦ルネサイトタワー
設立年月日	1935年12月7日
資本金	32,641,976,312円
従業員数	102,883名
HPアドレス	http://www.tdk.co.jp/

■ 株主の状況 (2018年3月31日現在) 株主数 21,565名

株主構成 (保有株式数ベース)



■ IR年間スケジュール



■ 役員の状況 (2018年6月28日現在)

取締役 (*印は社外取締役)	執行役員
代表取締役 石黒 成直	社長 石黒 成直
代表取締役 山西 哲司	副社長 植村 博之
取締役 澄田 誠	専務執行役員 小林 敦夫
取締役 逢坂 清治	専務執行役員 逢坂 清治
取締役 吉田 和正*	専務執行役員 Joachim Zichlarz (ヨアヒム・ツィヒラルツ)
取締役 石村 和彦*	常務執行役員 齋藤 昇
取締役 八木 和則*(新任)	常務執行役員 山西 哲司
	常務執行役員 永田 充
	執行役員 桃塚 高和
	執行役員 Joachim Thiele (ヨアヒム・ティール)
	執行役員 末木 悟
	執行役員 Michael Pocsatko (マイケル・ポチャッコ)
	執行役員 Hong Tian (ホン・ティエン)
	執行役員 Albert Ong (アルバート・オン)
	執行役員 松岡 大
	執行役員 疋田 理
	執行役員 Andreas Keller (アンドレアス・ケラー)

監査役 (**印は社外監査役)

常勤監査役 米山 淳二

常勤監査役 四居 治

監査役 石黒 徹**

監査役 藤村 潔**